

# 令和5年度 第4回 藤沢市地域福祉計画推進委員会 議 事 要 旨

## I. 開催概要

1. 日 時 2024年(令和6年)1月17日(水)9時30分～11時36分

2. 会 場 藤沢市役所 本庁舎5階 5-1・2会議室

3. 出席者

(1) 委員=18名

・会場出席者

石渡 和実、川原田 武、松永 文和、木村 依子、越智 明美、市川 勤、  
山口 燿子、椎野 幸一、浅野 朝子、村上 尚、末吉 育子、森 もと江、  
河原 寛子、松沢 邦芳、江崎 康子、

・オンライン出席者

鈴木 正貴、森山 千景、川辺 克郎

・欠席者

奥田 吉昭、戸高 洋充、南部 久子

4. 議 題

1. 開 会

2. 議 題

(1) 今年度のスケジュールについて

【資料1】藤沢市地域福祉計画推進委員会 スケジュール

(2) 藤沢市地域福祉計画2026(中間見直し)について

【資料2】進行について

【資料3】委員会意見まとめシート

【資料4】地域福祉計画2026素案の主な変更点

【資料5】藤沢市地域福祉計画2026(中間見直し)素案

【資料6】パブリックコメント実施結果について(当日配布)

(3) その他について

【資料7】支え合う地域づくり推進連絡会の取組について

【資料8】地域福祉活動計画の周知について

【資料9】来年度の地域福祉計画推進委員会について(当日配布)

5. 閉 会

## II. 会議の概要（議事要旨）

### 1. 開 会

事務局、石渡委員長より挨拶があり議事に入った。

### 2. 議 題

#### （1）今年度のスケジュールについて

《資料1、に基づいて事務局 鎌田より説明》

→質疑応答なし。

#### （2）地域福祉計画2026の中間見直しについて

《資料2～6に基づいて事務局 鎌田より説明》

#### ○河原委員

資料5の50ページ、下線部の「興味をもつきっかけづくり」の「興味」に引っ掛かりを感じる。興味だけではなく「関心」の語句も加えてはどうか。

#### ○石渡委員長

ご指摘に感謝する。確かに「興味・関心」の表現のほうがよいと感じる。事務局にご検討いただく。

#### ○森山委員

パブリックコメントについて、確認したい点がある。資料6の3ページの内容は、特に変更が生じなければ、そのまま96ページに記載されることになるか。

「市の考え方」は理解できるが、意見された方のことを考えると、担当する担当部局がわかれば納得しやすいと考えるが、そこまで計画に記載できるのかを含め、お伺いしたい。

#### ○石渡委員長

犯罪被害者への支援について、担当部局について記載したほうがよいというご意見か。

○森山委員

例えば、「考え方」の中にある「ふじさわ人権文化をはぐくむまちづくり指針」は、どこが管轄しているのか。読む側に立ったとき、出てくる指針や施策について、どこが対応してくれるのか、伝えたほうがよいのではと感じた。

○事務局

ご意見に感謝する。資料6に記載の内容は、基本的には計画書にそのまま載せることを想定している。「ふじさわ人権文化をはぐくむまちづくり指針」に関しては、人権男女共同平和国際課が主管するが、部署名までは計画の「考え方」への記載は考えていない。

○石渡委員長

「考え方」では指針を示し、指針名を市のホームページ等で検索していただければ詳細がわかるということのようだが。森山委員、ご理解をいただければと思います。

○椎野委員

資料3の3、ジュニアリーダーは防災面で非常に力になるため、登録が不可欠であると意見した。理念計画のため、見直し案で反映・修正された文言になるのは仕方がないし、事務局はよく考えてくれたと感じている。しかし若年層が育っていない現実は重く、どうにか現実を知ってもらい、具体的な提言ができないものかとやりきれない思いである。

次の計画策定では、もっと強く訴えかけていただきたい。

○石渡委員長

元日の能登半島地震でも、若い世代が活躍した話も聞く。地域を考える皆様も痛感していると思う。貴重なご意見を次に活かせるよう、心に留める。

他に質問や意見等はあるか。

○市川委員

椎野委員の仰る通り、いつ起こるかわからない災害の対応について考えておくことは極めて重要である。前回「ジュニアリーダーの育成」についてご意見があり、過去の資料を読み返してみたが、各中学校で「防災教育」を取り入れた事例があった。現在の取扱は不明だが、学校長の判断で決めることではないと考える。災害ボランティア等の報道では、現代の中学生は非常にしっかりしており、防災に対する考えもあると感じている。学校の問題なのか、行政の間

題なのかをしっかりと見定めた上で、行政として積極的に働きかけるシステムの構築、施策を打ち立てていただきたい。

日中に家にいる人は女性と高齢者が多いが、健康寿命も延びて元気な高齢者が増えている。災害に関して元気高齢者にも関心を持ってもらい、無理のない範囲の役割で防災活動を担ってもらうことも必要ではないか。

また、計画では必要性を訴えるだけで、すべきことがぼやけてしまう。実際に行政や地域で体制をつくり、一刻も早く、計画中でも「(具体的な)活動の参加者を募っている」と呼びかける段階になるべきと思う。

#### ○石渡委員長

大事なご意見である。学校としっかり連携してジュニアリーダーを育成すること、元気高齢者に防災活動(特に見守り等の情報)に貢献できること、文章を変えることも含めて事務局と検討していったらと考える。

#### ○河原委員

自分も時折「この場で災害に遭ったら」と考えるが、能登半島地震でも、帰省している人が普段と全く違う環境で被災しており、どんな場所で何ができるか、シミュレーションできる機会を提供していくことも、考えるきっかけづくりとして大事なのではないか。

#### ○石渡委員長

防災に関しては地域福祉計画だけで進めるわけではないため、おそらく担当する別の部局で行われているものとする。

#### ○椎野委員

シミュレーションから作成されたものに、ハザードマップ等がある。災害シミュレーションは必要だが、高度なスキルを要するため、政策(危機管理課)で行っていただいている。しかし、実際の訓練等に活かされることは少なく、イベント等で「体験」といった形になってしまう。

ジュニアリーダーも、3年生は受験で、1年生は小学校を卒業したばかりで、2年生が中心となる。片瀬(地区)の避難訓練では、ジュニアリーダーが最も活かされている。津波を考慮すれば、ジュニアリーダーは必須である。市川委員も仰ったが、元気高齢者も地域に何人かはいる。ジュニアリーダーが育てば、確実に避難等では助かる。その他の部分では、若い世代が育たなければどうしようもないが、簡単には育たない。

#### ○河原委員

「育てる」こととは少し違う。1人1人が防災を意識して考え、調べて自分で動くことにより、リーダーと同じような活動が可能になる人が増えると考え、防災を意識するきっかけが大事だと申し上げた。

#### ○椎野委員

15年防災の会長を務めているが、「担い手が育たないのは、会長が育てないからだ」と言われる。背中を見ろと思う。最初からやる気がある人と、そうでない人は違い、育成も難しいところである。

#### ○浅野委員

資料3の3、とてもよく考え、直していただいたと私は思う。中でも「助け合いの地域づくりを考えることが大切です」が非常に大切と思う。さらに「地域でお互いに助け合おう」というような文言が入れば、より藤沢市のものになると考える。

#### ○椎野委員

仰るような文章が入れば、防災への無関心は解決の方向に向かうと思う。防災への備えは14地区で一生懸命やっている。それを認めていただきたい。

27日に令和5年度藤沢市地域防災活動推進大会で発言するので、皆様にもご来場いただきたい。

#### ○石渡委員長

椎野委員が色々取り組まれていることは、委員の皆様も深く認識されていると思う。防災を含め、他の面でも「我がこと」として考えるのが地域福祉全体の考え方であり、文章を変えることでその点がより伝わるのであれば、浅野委員のご意見も踏まえて資料3の3の修正も検討したい。ご意見に感謝する。

#### ○松永委員

前回の素案と今回の見直し案を比べると、見直し案5ページに、令和5年3月策定の「重層的支援体制整備事業実施計画」の位置づけが加わったことが大きな違いである。先ほどから、多くの子どもとの接点を持ちたいとき、行政・地域と子どもの間には、必然的に学校・教育委員会が壁となると意見が出ている。関係団体・ボランティア団体等がどんなに啓発活動を行っても、学校というフィルターを通しては浸透していかない。組織の縦割りをなくし、教育と防災・教育と福祉をつなげていくことが、まず行政に動いていただくべきところ

であり、これが出来ているか否かで浸透の深さが全く違うものになる。

15ページに「重層的支援体制整備事業のイメージ」がある。「ひきこもり」や「生活困窮」のような特定の要支援者に対する支援のイメージが強いが、福祉・防災と教育をつなげていくのであれば、地域のジュニアリーダー育成も具体的な1例として挙げることは可能と考える。

38ページ③「自治会・町内会活動の支援」でも、様々な理由から従来のような地域づくりが難しくなっていることを問題視している。ただ、下線部分は「支える人 → 支えられる人」のような構図の印象が強い。これからは「支え手・受け手の垣根を超えて」をめざすべきであり、若い世代にもっと関心を持ってもらうには、垣根を超えた好事例や、自治会の存在意義を取り戻すための活動例などを紹介し、切り口を変えたアプローチが必要と感じている。

計画では圏域が定められ、行政・社協・地域活動を担う人・市民等の役割が書かれているが、それぞれがつながらず、それぞれの説明で終わっている印象がある。これから増やしたい活動、少数でも大事なことを残していくことも、計画の大事な役割ではないか。地域の仕組みづくりを意識した修正や、矛盾を感じる点があれば微調整されるといいと思う。

最後に、巻末（105ページ）に「地域福祉活動計画（社会福祉協議会）」が記載され、計画の両輪として尊重されていることは、他の市では例を見ず、非常によい取組と思う。ただ、大見出しの「その他」の文言は外してもよいと考える。

#### ○石渡委員長

多くの大事なご指摘に感謝する。この後の議題でも、川原田副委員長から地域の取組みについてご報告いただく予定である。

資料3の8では、教育分野への意見を「参考として捉える」とされているが、確定すべき年度末までにはまだ時間があり、先の椎野委員のご指摘も含めて修正したほうがよい箇所は多分にある。重層的支援でも、ひきこもり等の新しい課題に取り組まれているが、次の段階として地域全体を考えたとき、子どもの問題や元気高齢者の活用についても書き込んだほうがよいと考える。事務局、副委員長にもご協力いただき、修正を検討していきたい。

また、この顔ぶれで集まるのは今日が最後のため、まだ発言されていない委員の方にご意見をいただきたい。

#### ○松沢委員

先に森山委員からパブリックコメントについての質問があった。資料5の62ページ「更生支援に向けた地域づくり」では、加害者側の人の再犯防止や社会復帰等の支援を指している一方で、パブリックコメントには「被害者側の人にも、福祉の支えが必要ではないか」という意見をいただいた。

被害者側への支援も取り組まれているが、各々の実情に合わせると支援の所管は多岐にわたるため、この計画ではその大枠である指針が示されており、この「考え方」でよいと考えている。

#### ○鈴木委員

資料3の6に関連して述べる。現在、市内の特別養護老人ホームでは外国籍の方の雇用が拡大し、どこも外国籍人材なしでは事業を展開できない状況となっている。それを踏まえると、ルビ等の表現により、市民の1人として認め、外国籍の方にも市民として計画を読んでいただくことにつながると考えており、今後はそのような表記の仕方も必要なのではと思う。

#### ○川辺委員

計画完成の後、どう市民の皆様にも周知していくかを考えて作らなければ、手に取ってもらえず作った意味がなくなってしまうことを危惧している。委員会全体を通して「(市民に) 関心を持ってほしい」というご意見が多かった。

例えば年に1回でも、市の職員等が小・中学校に出向き、冒頭で観賞したDVDも活用しつつ、地域福祉に関する意識を高める講座を開くなど、若い世代に関心を持ってもらうことを真剣に検討してはどうかと考えている。

校長や教育委員会が壁となるといった話も出たが、市の中で積極的に教育委員会と調整を行い、1年、2年と出張講座を続けていく中で、子どもたちの中には講座で学んだことが残り、意識が育っていくと思う。

#### ○石渡委員長

非情に大事なご意見に感謝する。計画の周知に関しては、この後シンポジウム等も検討されているかと思うが、学校へ出張講座はとても重要性を感じる。このあたり、社会福祉協議会では何か工夫されているか。

#### ○村上委員

自分も環境問題やごみの分別等を、子どもから指摘を受け認識した記憶があるため、子どもたちに知らせていくことの重要性は感じている。学校からの用命があれば「福祉教育」という形で出張講座を行っているが、内容(プログラム)は学校側で決められており、高齢者の疑似体験や車いす体験が多いように思う。そ

の中で地域福祉の実情や重要性を伝える時間をもらえないか、我々も働きかけているところである。冒頭視聴の動画の活用はもちろん、民生委員や防災担当の方々にも来ていただき、お話を聴ける時間にもできればと考えている。学校側からも同様に考えている感触があり、社協として働きかけを続けていきたい。

○石渡委員長

ぜひお願いしたい。行政からもバックアップしていただけたらと思う。

○木村委員

自分が子育てするようになってから関心を持ち、子育て支援をはじめた。藤沢市の地域福祉は地区ごとに特色があり、当時は子育て支援も地区によって非常に差があった。その差がなくなるよう、「市内全域で同じように、子育てに関心を持ってください」とアプローチを始めて20年ほどが経ち、現在は市外から流入されたお母さんから「藤沢市は子育てにとってもやさしい」と言ってもらえることが、子育てひろばを運営してきて一番うれしいことである。ここまですることには時間がかかることを実感している。

計画の取組も同じように、時間はかかっても目指しているところは伝わると思うので、今後に期待している。

○石渡委員長

大事なご指摘に感謝する。市民の流入が増えたのは20年かけられた活動の結果でもあり、藤沢市の人口は39万人と記憶していたが、現在は44万人に増えている。そういう気持ちを持ち続けて活動することが大事だと、再認識した。

○越智委員

「子ども会」は「ひろば」とは年齢層が違うので、その視点から述べたい。子ども会への勧誘活動が、チラシ配布の禁止、声をかけても聞いてもらえないなど、非常に難しい。若い人は自治会活動にも単発の参加で、準備段階から本格的に関わるのが少ない、いわばお客様の状態が続いている。

近年、若い人に「無料の活動に見返りを求められるのでは」という警戒心を感じ、「参加してくれるだけでいいですよ」と10年呼びかけ続けた結果、活動を担える人が育たず、地域のことを知らない保護者が増えた。市でももう少し強く、「ここを皆で頑張っていこう」という方針をいくつか打ち出していたらとよいと考える。

○山口委員



前回の委員会で、自治連で今年度の合同防災訓練を行い、前年度に引き続き3人の中学生が参加してくれた件をお話した。先日校長に、委員会で事例を話した旨を報告した。校長は3年前後で転任することが多く、交流が突然途絶えることもあるため、取組を続けるための目論見もある。

善行地区は自治会の加入率も一番低いと言われているが、2,000世帯ほどの大きな区域が3ヵ所あり、そこではいずれも加入率が50%~85%となっている。全体にするとなぜ40%になるのか、これは計算の方法がわからないため、後ほど市にも確認したい。

広報の経験上文字の使い方が気になり、前回もFAXで指摘を送ったが、全く直っていない。見直し案9ページ⑤「こども基本法」のところでは、法律名は「こども」だが、説明文も皆ひらがな表記となっている。文章内は「子ども」とすべきと考える。藤沢市では以前より「子ども」を採用しており、14ページ等の他のページではこの表記で記載されている。「めざす」も目次ではひらがな表記だが、6ページ下段では「目指す」、14ページでまた「めざす」と変わっている。指摘が全く反映されていないため、もう一度述べた。

#### ○石渡委員長

ご指摘に感謝する。表記の統一はすべきで、行政でも「めざす」はひらがな表記が一般的になりつつある。行政の方針もあるため、すべてご指摘の通りにはいかないと思うが、ご指摘の箇所は事務局に対応願いたい。

また、校長の転・着任に備えて根回しすることも真の周知と思う。

#### ○末吉委員

元日の能登半島地震は思ってもみない大災害となった。東日本の震災から10年以上が経ち、皆、段々とぼやけてきた防災への意識が引き戻される思いをしていると思う。私も民生委員として、実際に地域が被災した場合に何ができるだろうと考えた。ジュニアリーダーの話も出たが、能登の災害の映像を見て何を感じたか、中高生に尋ねてみたい。今週末に地域の組長会議があるが、同様の話し合いができることを望んでいる。地域でも、学校でも「我がこと」として考え続け、話し合っていくことが重要だと感じている。資料3の文章にも、能登の災害を受けた、身近な具体的内容の加筆を検討していただきたい。

#### ○石渡委員長

ご意見に感謝する。修正もご検討いただきたい。また、学校との連携というのは行政レベルで動いていただくことを改めて感じた。

#### ○江崎委員

(ジュニアリーダー等について)「地域福祉計画に必要」ということで、教育委員会・学校関係者にも委員として参加いただければよいのではないかと。

3～4年前に、障がい者関連で災害に関する研修会があり、備えるべきものを図にし、そこに(備わっているものに)シールを貼っていくグッズが配布された。普段は思いつかないことも含まれていて、シミュレーションして考えをまとめるのに役立つガイドブックである。障がい者の方だけでなく皆で使えるとよいと感じた。

見直し案の文章は、とてもよく作られていると感心している。「障がいのある人」のところで、この計画では「インクルーシブ」の前に「ノーマライズ」されることが大事である(早期に支援が必要な人を発見し、支援を届けた上で、皆で地域で暮らそう)と謳われているところが非常に素晴らしいと感じている。

1つ、章立ての表示が見開きの右側のページにあるが、第3章だけ左ページとなっている点が気になった。

#### ○石渡委員長

障がいの方向けの研修会の主催はどちらだったか伺いたい。

#### ○江崎委員

障がい者団他の連合会が主催していた。

#### ○石渡委員長

ご教示に感謝する。確かに、一般の方にも有効な方法と感じる。評価していただいた点もあるが、ご指摘の装丁に関して、事務局から何かあるか。

#### ○事務局

江崎委員の仰ったガイドブックは、国立障害者リハビリテーションセンター作成の「自分で作る安心防災帳」というキットである。現在も、藤沢ふれあいフェスタ等での作成体験等が行われている。推進室にはまだ在庫があり、ご希望により出張し、体験していただけるようになっている。

#### ○森委員

計画案が委員会の回を重ねるごとに議論され、よい形となり、めどが立ったことはよかったと思う。以前は湘南大庭地区でも、地域の複数の協議体のメンバーで、中学校に認知症高齢者のサポートについて寸劇を交えた講演を行っていた。生徒・先生にも劇中で役を演じてもらい、地域とともにどう支えていくかを考える機会となっていた。私たち地域活動側からも学校へ働きかけている。今回、コロナ前には行われていた「豆まき」を復活させようという働きかけに学校側も応

じてくださり、小・中学校ともに行われる運びとなった。行政にお願いしたい事はあるが、私たちでもできる範囲でアプローチしていくことも大事だと思う。

○石渡委員長

ご意見に感謝する。我々も含め、アプローチをお願いしたい。

### 3. その他

《資料7・8に基づいて、川原田副委員長・村上委員より説明》

○石渡委員長

ご説明に感謝する。インセンティブ制度が提言のように進むと、計画の周知だけでなく行動に移る段階まで推進できるのかと、感動しながら拝聴した。奈良市の事例をみると、椎野委員の仰った行政内部の連携にも関連すると感じ、実現に向けていかなくてはと改めて思う。

時間が過ぎている。計画の見直し案については、文言の修正や本日いただいたご意見をどう入れ込むかを検討していきたい。

川原田副委員長、補足はあるか。

○川原田副委員長

いただいたご意見を基に、委員長と検討し、事務局を交えて仕上げていきたいと思う。ご意見をいただき、感謝する。

○石渡委員長

最後に事務局から、資料9「令和6年度の地域福祉計画推進委員会について」ご説明願う。

○事務局

まず、議題2で皆様からいただいたご意見を基に、計画の見せ方や文言の共通事項の整理、子どもへのアプローチ（教育機関との連携）等、再度事務局でも確認しながら最終案として進めていきたい。様々なご意見に感謝する。

《資料9に基づいて事務局 鎌田より説明》

○石渡委員長

本日は、この顔ぶれでの最後の委員会となる。限られた時間ではあったが、いつも気づきの多い、貴重な場であったことに感謝申し上げる。来年度も関わ

れるかはわからないが、これからは議論したことをどう根付かせていくか、具体的な行動も視野に入れながら動静を見守りたい。皆様にも、委員でなくなったとしてもご協力いただければと思う。

それでは、本日の議題はすべて終了し、進行を事務局にお返しする。

#### 4. 閉 会

以 上